

特色

近年は慢性腎臓病(chronic renal disease:CKD)という概念が提唱されるようになり、末期腎不全に至る前にできるだけ早期に腎臓病を発見し、的確な治療を行うことの重要性が再認識されています。CKDそのものが脳梗塞・心筋梗塞などに代表される心血管病の強い危険因子となるため、CKD治療が心血管病への対策としても重要視されています。当科では腎疾患の早期診断に積極的に取り組み、早期腎炎から慢性腎臓病、

末期腎不全に至るまでの総合的治療・管理を行っています。慢性腎臓病を初めて指摘された方や自宅での管理に不安をお持ちの患者さんには、CKD教室や教育入院をお勧めしています。患者さんだけでなくご家族の方にもご参加いただき、腎臓の働きや食事療法への理解を得られるように努めています。また血液浄化療法を必要とする患者さんに対しても、泌尿器科・腎不全外科と連携をとりながら集学的治療を行っています。

対象疾患

慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群など原発性腎疾患
糖尿病腎症、膠原病からの腎炎など二次性腎疾患
急性・慢性腎不全

腎代替療法(腹膜透析、血液透析)
腎疾患に伴う電解質異常や血圧異常
膠原病

診療実績

2021年4月1日～2022年3月31日

外来診療:

総患者数 4,954名

新患者数 457名

地域診療支援病院紹介率 91.7%

地域診療支援病院逆紹介率 210.4%

入院診療:

総患者数 3,344名

新入院患者数 262名

平均在院日数 12.3日

地域の先生方へ

CKD進行予防のため、尿蛋白などの検尿異常や腎機能障害がある患者さんは早めにご紹介いただきましたら幸いです。慢性腎不全の患者さんで血清クレアチニンの上昇速度が速くなっている、貧血進行、浮腫、高血圧やカルシウム・リンのコントロール不良等、専門医による診察が必要と考えられる患者さん

がございましたらご紹介ください。当科にて精査・投薬調整・療養指導を行ったのち紹介元へ戻っていただき、連携をとっていく方針です。淀みのない治療継続のため、可能な限り迅速で詳細な診療情報提供を心掛けております。